

日本海洋科学振興財団

海外渡航費用援助 報告書

2022年8月18日

氏名 矢野 諒子

所属機関(院生は大学院と研究科名) 広島大学大学院 統合生命科学研究科

職名(学生は学年) 博士課程後期2年

渡航期間 2022年7月28日-2022年8月8日

渡航先 アメリカ合衆国ニューハンプシャー州

渡航目的とその成果、感想

私は本助成を受け、アメリカ合衆国ニューハンプシャー州のサザン・ニューハンプシャー大学で対面開催された、ゴードン研究会議主催の Unifying Ecology Across Scalesに参加した。本会議は、参加者が1週間寝食を共にし、朝から晩まで最新の研究内容について発表・議論を行うという、通常の学会とは異なる特色を持つ。私は本会議において、若手研究者が集まる Gordon Research Seminar (GRS)と本会である Gordon Research Conference (GRC)のそれぞれで、「The combined stress of nutrient limitation and high light in summer may hinder diatom growth and promote *Chattonella* red tides in Japanese coastal areas」, 「Can recent drastic changes in phytoplankton species in Japanese coastal areas be explained by oligotrophication alone? A proposal to incorporate other extreme changes above the sea surface」というタイトルで2件のポスター発表を行った。過去に対面開催の国際学会に参加した経験はあるものの、全てが自身の分野である海洋生物に関係した会議であったため、今回参加した“生態系”をテーマとした学会は、対象生物や解析手法が目新しいものばかりであった。ポスター発表時間は GRS, GRC のそれぞれで2時間×2日間あり、計8時間自分の研究を参加者に紹介する時間があった。発表を通じて今までに着目してこなかった視点で自分の研究を考えることが出来、自分の研究に応用できそうな新たな知見を得ることが出来た。また、想像よりも植物プランクトンの研究者が多く、“環境変化に対する植物プランクトンの応答”という自身のテーマに対して、有意義な議論を行うことが出来た。

加えて、今回の学会参加は、日本人ゼロ、顔なじみゼロの環境で、合宿のように海外の研究者と交流したことで、自身の英語力の向上、及びさらなるコミュニケーション力の必要性を感じさせる良い経験となった。さらに、ルームシェアしたポスドクの研究者を含め、多くの若手の研究者と過ごす中で、出身国ではない海外におけるキャリアパスについても相談することができた。本会議に参加することで、今まで交流してこなかった分野の研究者とつながりを持つことが出来、違うバックグラウンドを持つ研究

者と意見を交換する重要性を感じた。今後も機会があればゴードン会議を含めた国際学会に積極的参加し、様々な分野に跨ることが出来る、国際的に活躍できる研究者を目指したい。